

北東アジア地域のグランドデザイン（総合開発構想）の研究

総合研究開発機構国際研究交流部主任研究員 正会員 ○小泉 哲也
東洋大学 国際地域学部国際地域学科 教授 正会員 金子 彰

1. 「北東アジアのグランドデザイン」の背景と目的

北東アジア地域（日本、韓国、中国東北部、北朝鮮、極東ロシア、モンゴル）は、発展の度合いには差を有しているが、天然資源、人的資源など、さまざまな面で高い相互補完の可能性を持っている。これらの補完性を十分に活用することにより、この地域は経済圏として発展していく大きなポテンシャルを持っている。この北東アジア地域の持続可能な発展に資する開発を推進するため、総合的な開発ビジョン（グランドデザイン）の必要性が高まっている。このためグランドデザインおよびその具体化のための地域の協力および開発のあり方について研究を行った。地域の発展に向けた開発計画を推進するには、政治、経済、エネルギー、環境、都市開発などについて総合的に検討する必要がある。そのための検討のポイントとしては次の5つがあげられる。

一点目は、国際公共財としての多国間インフラ計画を、各国ごとではなく地域全体の最適化を図れるよう、効果的に計画・構築すること。二点目は、セクター横断的な観点から開発を計画すること。三点目は、持続可能な経済発展を可能とする適地を選定すること。四点目は、特定地域（適地）のセクター横断的な総合的な開発を推進すること。五点目は、ソフトインフラとハードインフラの適切な関係をはかることである。

したがってここで考えるグランドデザインにおいては、一、国際公共財としての多国間インフラ構築にあたって、各国が個別の計画の中でインフラを整備するのではなく、北東アジア全体の計画へと各国計画を統合する事により、全体最適化を図ること、二、ハードインフラとあわせて、通関、検疫、流通、サービス、人材育成、研究開発などのソフトインフラのシステム整備をすることがその主な目的となる。

2. 地域の特性を考慮した開発の展開

各分野を、国家・部門を横断して開発するには、北東アジア地域の各国が、特に課題や目標としている開発分野に着目し、相互に利益を得る「WIN-WIN」の関係を創り上げていくことがその基礎となる。この「WIN-WIN」を確立するためのフィジカル・インテグレーションの観点から、地域全体そして他の複数分野をリードし、同時に開発可能にする「軸となる開発分野」が必要であると考えられる。

各国の現状を個別に見ていくと、韓国においては、ロシアや中国からのエネルギー資源を確保すること、さらにハイテク工業製品の開発と日本、中国、ロシアなどへの輸出が求められている。そのためには、天然ガスパイプラインの整備、南北縦断鉄道の連結、そして、日本への海上輸送ルートを整備し、大陸や日本との間をより強く結ぶルートや物流のハブを造ることが必要である。

中国では近年、東北部振興に取り組んでいる。東北三省は、自動車やプラント設備の製造など、重工業も相当の実力があるので、韓国や日本との分業によって、さらに効率的な製造工程が生まれる可能性が高い。そのためには、東北地方の都市開発、再工業化に向けたエネルギーや水資源等の確保、工業製品輸出のための交通・運輸機関の整備が必要である。

極東ロシアでは、エネルギーを中心とした資源の有効活用と人の定住策の推進が必要である。原油、天然ガス、水、森林を中心とした資源は特に重要であり、近隣国との輸出入を推し進めることが現実問題である。さらに、極東ロシアにおける人の定住のためには、都市の開発、そして、韓国、日本などとの貿易に向けた、沿岸地域における資源開発や工業化の推進が求められている。ただし、現在のロシアの開発は、エネルギー資源ばかりに目が向けられており、極東ロシアにおける人の定住に役立ち、地域住民に根付く仕事の間を創り出していく必要がある。

キーワード 北東アジア グランドデザイン 交通

連絡先 〒150-6034 東京都渋谷区恵比寿 4-20-3 恵比寿ガーデンプレイス 34F 総合研究開発機構 03-5448-1728

モンゴルにおいては、銅などの非鉄金属・石炭を中心としたエネルギー資源の開発、畜産製品の輸出、都市開発、観光資源開発が必要である。そのために、海外と結ばれた貿易ルートや観光ルートの確保が不可欠である。

日本は、ロシア、中国からのエネルギー資源の確保のほか、韓国、中国との半導体、精密機械などの工業製品の輸出入の増大を通じた経済の一層の一体化が必要であり、朝鮮半島、そして中国沿岸地域との海上輸送ルートのさらなる整備が望まれている。

このような各国の課題や目標を踏まえた必要な開発ルートを下図に示す。まず、交通機関では、国際的な軸を作る必要があり、北東アジア全体を結ぶ貨物や旅客のメインルートが必要である。北東アジア地域を環状に取り巻く鉄道とそれと結ぶ東西・南北を軸とした幹線、さらに現在進行している韓国と北朝鮮を結ぶ鉄道連結等が今後の開発の基礎となる。そのためには、例えば鉄道では軌道幅の違いなど国家間のシステムをクリアし、「シームレス」な流れを創る必要がある。そのような解決により、様々な輸送機関が、ロシア、モンゴル、中国、北朝鮮、韓国から日本にまで各国を通るルートや、あるいは二国間の直接的なルートによって往来が可能となるなど、「シームレス」な流れを創るきっかけになる。

また、開発と同時に、国境を低くするための通関などの制度いわばソフトインフラにも重点を置き、「シームレス」な流れを創ることが重要である。

3. 北東アジア地域共同体への展開

このような構想を実現させていくためには、北東アジア各国が共通の繁栄となるような枠組みを創ることが重要である。つまり、短期的な貿易収支などにとらわれない、各分野における WIN-WIN 関係を築き上げるため、まず各国共通の認識を得るための非政府的なトラック・ツーのような小さい共同体やフォーラム、あるいはそれが困難であれば相互に関心の高い「プロジェクト単位」からはじめ、ここで、北東アジアのグランドデザインの長期構想を、各国研究者などが平等な公平な立場で研究し、国際世論をリードしていくことが現実的と考えられる。

参考文献

- ・ NIRA 政策研究 北東アジアのグランドデザイン 2002 VOL.15 NO.11 総合研究開発機構
- ・ 北東アジアのグランドデザイン 北東アジアグランドデザイン研究会 NIRA チャレンジブックス 日本経済評論社

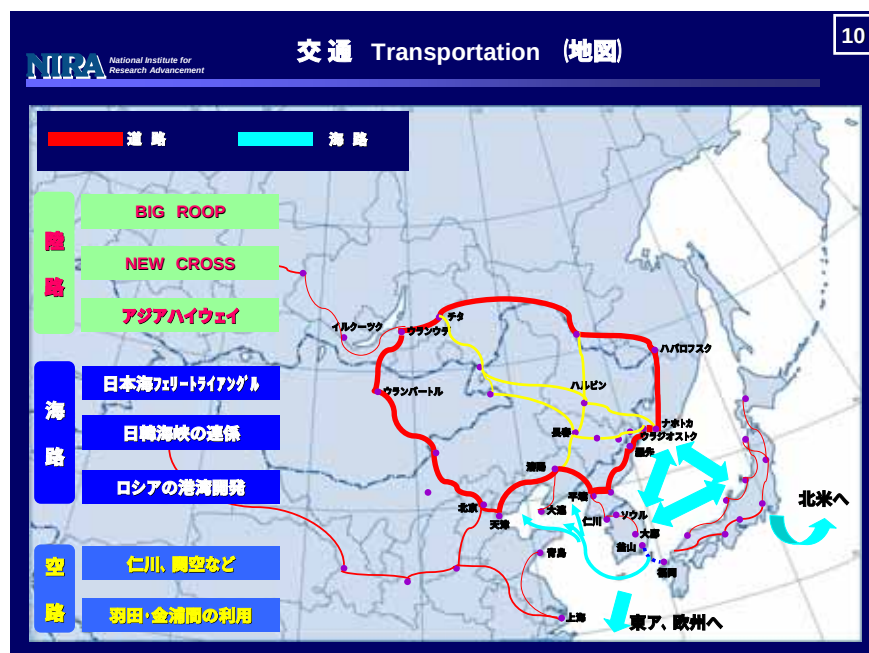


図 北東アジアの基幹的な交通体系 出典：総合研究開発機構研究会資料